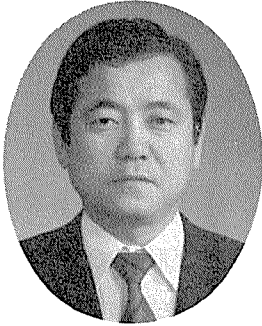


地 方 の 会 社 経 営



梅 津 誠 司

㈱新和調査設計事務所代表取締役

突然“人物往来”の原稿依頼を受けた。
今まで自分については考えてもみなかった。

“自分とは何なんだ”、考えてみると25歳で会社を設立し、以来その経営に懸命に取り組んできている。これ以外には何も無い、視野の狭い人間かも知れない。

会社設立当初は、自分が何とか安定した生活をしなければならぬと考え、社員が増えたと会社経営の安定を考えた。そして、会社の成長とともに地方の地質調査業、建設コンサルタント業の役割・責任の重大さを感じております。

地方の会社は、顧客に近いことで相談や打合わせが十分にできるし、調査現場にも

すぐ行けることから、踏査による現場状況把握や現地での細密な調査が可能である。また、災害時の緊急な対応等、便利屋としてもその役割は大きい。

一方、近年は狭い意味での地質調査だけでなく、自然と構造物との調和、環境の変化、さらに人々の生活への影響などの調査が要求されていて、今日の地質調査はかつてなかったほど人間生活と密接に結びついてきている。このような中で地方の会社は、地域経済との結び付き、地域社会活動・行事への参加、地域住民とのコミュニケーションの充実等地域社会とのかかわりが非常に強く、その責任の大きさは言うまでもない。

われわれは地方の地質調査業者であり、この専門技術を通してその社会責任を果たす以外ないと思っている。地方の会社に発注者は何を求めているのか、最小限、打合せや相談にすぐに対応できて便利である、技術的に安心して頼める、フォローアップ

は十分にできる等であり、また、災害時の
応急対応ができること等の便利屋的な面も
あると思う。このような特性を生かして業
務成果に強い責任を持ち、自己の技術力に
高い信頼を得ることで発注者の良きパート
ナーとなれるような役割を果たしていきたい。
それにしても技術力の向上が最大の課
題であり、特に地方特有の一般日常業務や、
緊急時に即時対応のできる技術力の向上が
重要である。ただ、残念なのは技術士の数
が都市部に偏在していて地方では非常に少
ないことである。いま私は福島県技術士協
会の事務局を担当し、技術士試験の情報伝

達や受験に関する相談、技術士制度の普及
・宣伝活動等を行っているが、このことが
少しでも技術力の向上に結びついてくれる
ことを願っている。

以 上

プロフィール

昭和17年生 51歳

昭和36年 米沢工業高校土木科卒

昭和43年 ㈱新和調査設計事務所設立

家 族 福島市 妻

子 2人

4人家族

